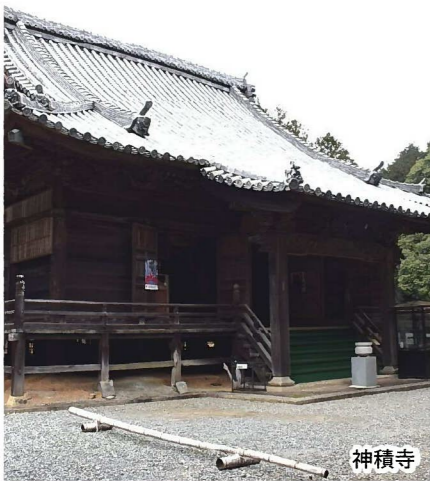


七種山



神積寺



神積寺



神積寺

播磨のなかのふくさき

古代、福崎町域は大国播磨に属し、『播磨国風土記』には現在に伝わる地名も見られます。また、中世は赤松氏の所領、近世は姫路藩領として、播磨地域に展開したさまざまな歴史的事象の舞台となり、赤松氏や姫路藩に関係する数々の歴史文化遺産が残されました。近代には、播磨のなかでも特に神崎郡の政治の中心となり、人・物・情報が集積するなかで地域知識人グループが形成されるなど、文化面においても中核を担ってきました。そして、戦時下には、姫路の後背地として軍事施設も立地しました。

このように、播磨の歴史や文化と歩みを共にしてきた福崎町には、播磨の歴史文化の特徴が散りばめられ、播磨地域の歴史文化と一緒に捉えることで、より一層輝きを増す歴史文化遺産が数多く受け継がれています。

■播磨国風土記

風土記は和銅6年(713)の元明天皇の命令により編さんが始まったとされます。「国郡郷の名」「産物」「土地の肥沃の状態」「地名の起源」「伝えられている旧聞異事」が記された古代の地誌で、出雲・常陸・播磨・豊後・肥前の5か国で写本が残っています。『播磨国風土記』の研究は、明治時代頃から本格的に始まり、なかでも井上通泰の『播磨国風土記新考』(昭和6年(1931))は、現代の風土記研究のバイブルのひとつにもなっています。また、松岡静雄は昭和2年(1927)に『播磨風土記物語』を出版、松岡映丘は風土記に登場する大国主命を描いています。



大国主命(松岡映丘)

本町域は、『播磨国風土記』の神前郡条に見られる6つの里のうち、高岡里、川辺里、多駝里にあたりとされ、神前山、奈具佐山(七種山)、八千軍野(八千種)など、現在に伝わる地名も見られます。

■赤松・山名の合戦と中世山城

中世の播磨は、四職の一つとして幕府内で力をもった赤松氏の所領となりました。町内には、春日山城、高峰山城、高橋城、田口山城などが築かれており、春日山城は赤松氏の幕下とされる後藤氏を城主とし、高峰山城は赤松貞範を祖とする赤松氏伊豆家一族を城主とするなど、赤松氏との深いつながりを感じることができます。

嘉吉の乱で赤松氏が幕府に反旗を翻すと、その後、播磨国内では、度々赤松・山名両軍による合戦が繰り広げられました。東西・南北の道筋が交差する本町域では、多くの軍馬や兵士が行き交ったと考えられ、西光寺区の五輪塔は、嘉吉の乱の戦死者を供養したものとされています。

■姫路藩

関ヶ原の合戦後、池田輝政が播磨一国の領主として姫路に入城し、姫路藩が成立します。江戸時代を通じて、福崎町域の村々はすべて姫路藩領でした。

姫路藩では数村から20数村ごとに大庄屋組を設けて大庄屋が置かれました。本町域では辻川組、余田組、山崎組などの大庄屋組が設けられ、このうち辻川組の大庄屋が三木家でした。大庄屋三木家は、姫路藩全藩で繰り広げられた寛延一揆(1748~1749)の打ちこわしを免れた数少ない大庄屋の一つで、屋敷構えや数多くの文書を残し、それらから往時の町や姫路藩による支配の様子を知ることができます。

一揆後の藩政改革のなかで、飢饉や災害に備えて米や麦を蓄えた「固寧倉」が姫路藩各地に設けられ、福田区には固寧倉が現存しています。

この他、姫路城の心柱は大善寺(西大貫区)境内から伐り出されたこと(『大善寺縁起』より)、姫路藩主の命で奉獻された岩尾神社の石造鳥居(加治谷区)、應聖寺の姫路城主歴代御位牌(板坂区)、姫路城主本多忠国寄進の不動明王坐像(長目区)など、本町域の村々と姫路藩の深いつながりを示すものが数多く残っています。



不動明王坐像(長目区)



■近代・神崎郡の中心地

明治19年(1886)、神東・神西郡役所が屋形村(市川町)から西田原村辻川に移転して新庁舎が建設され、明治29年(1896)には、神東・神西2郡が統合され、神崎郡役所と改称されました。大正12年(1923)に郡制が廃止されるまでの約40年にわたり、神崎郡の政治・文化の中心として、この地方の発展に大きな役割を果たしてきました。

明治25年(1892)には田原村辻川に株式会社田原銀行、明治30年(1897)には福崎村福田に福崎商業銀行が設立され、明治35年(1902)には福崎村福崎新に福崎警察署が建てられました。また、明治後期以後に各地で出版される郡誌類の先駆けとなる『神東神西郡沿革考』(明治29年(1896))の出版、日露戦争記念としての振武館の建設(明治40年(1907))、現在の福崎高校の前身となる福崎村立実科女学校の創立(大正3年(1914))などのさまざまな事業が展開されました。このような地域の中心性を背景に、幕末来の三木家を中心とした地域の知識人の交流はより一層活発なものとなり、数多くの作品が残されてきました。

■戦争と福崎

第二次世界大戦が開戦するなか、昭和16年(1941)、高橋に大規模な軍事施設が進出してきました。大阪陸軍航空補給廠姫路出張所、通称「高橋の弾薬庫」といわれる施設です。姫路の後背地として、爆薬と航空燃料の貯蔵と補給を任務とし、主として神崎郡内出身者により、爆弾・砲弾の弾体への爆薬の充填などが行われていました。

昭和19年(1944)になると戦局が悪化し、本土の本格的空襲が必至となったことから、「高橋の弾薬庫」の疎開が急務となり、鉦山の廃坑や山中などに爆薬などが移され、1,000人を超える人々が動員されて、高橋、西谷、西治で約20か所の爆薬壕が急造されました。しかし、岩盤が多く能率が悪かったため、桜区などでさらに20~30か所が掘られたとされています。

現在、「高橋の弾薬庫」跡地の大部分は、工業団地へと姿を変えています。表門・裏門跡などにその痕跡を残し、町内には爆薬壕跡や防空壕跡を確認することができます。また、終戦翌年の爆薬庫保管品類の処理中に起こった爆発事故で亡くなった指揮官ポール中尉やアメリカ兵、日本人作業員の慰霊碑も建立されています。

■民俗文化

播磨天台六山の一つである妙徳山神積寺と追儺(鬼追い)、播州秋祭り・屋台や浄舞・獅子舞などの村の祭りや家の行事、習俗や方言、食文化などの人々の暮らしには、播磨の特徴を色濃く感じられる民俗文化が数多く受け継がれています。

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】古代~近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
風土記ゆかりの地	・柳田国男・松岡記念館の所蔵品(井上通泰の風土記研究関連資料等)	・地名説話「八千軍野」 ・日光寺山(「砥川山」の候補地)	・七種山【県指定】 ・神前山 ・山崎(「山使村」の候補地)
赤松氏と中世動乱に関する遺構・遺物	・五輪塔(西光寺) ・教願寺	・春日山城跡 ・高峰山城跡	・高橋城跡 ・田口山城跡 ・應聖寺
姫路藩に関係する遺構・遺物	・三木家住宅【県指定】 ・石造鳥居(岩尾神社)【県指定】 ・不動明王坐像(長目) ・三木家文書	・大善寺	・固寧倉【町指定】 ・旧小國家住宅主屋他【国登録】 ・姫路城主歴代御位牌(應聖寺)
近代・神崎郡に関係する遺構・遺物	・旧神崎郡役所【県指定】 ・旧辻川郵便局【国登録】 ・振武館建設跡地の碑 ・三木家文書	—	—
戦争遺跡	・防空壕(井ノ口、西光寺)	—	・弾薬庫表門跡、裏門跡 ・弾薬壕(田口、桜、西谷) ・ポール中尉等殉職慰霊碑
民俗文化	・秋祭り・屋台 ・浄舞(熊野神社)【町指定】 ・追儺(鬼追い)(神積寺)【町指定】	・秋祭り・屋台 ・浄舞(余田大歳神社)【町指定】	・秋祭り・屋台 ・獅子舞(桜)【町指定】



松岡(藤本煙津、倉本樺山、林雙橋の寄せ書き)



ポール中尉等殉職慰霊碑